

木材加工で東北一の高校生！

白石工業高校生がものづくりコンテストで優勝

白石工業高等学校3年生で建築部所属の長谷川夕海さんが、11月17・18日に開催された「高校生ものづくりコンテスト2020東北大会（東北地区工業高等学校長会主催）」の木材加工部門に出場し、見事優勝の栄冠を手にしました。

この大会は、東北地区の高校生の技術・技能向上を目的に7部門で競技が行われ、東北各県の大会を勝ち抜いた代表者が技術を競い合いました。長谷川さんが出場した木材加工部門では、与えられた課題から原寸図の作成や木材の墨付け・加工などを行い、技術の正確さや出来栄などが評価されました。

長谷川さんは「卒業生や地元の建設職の皆さんに指導いただき、優勝することができました。全国大会はコロナの影響で中止になり残念ですが、来年は後輩に目指してもらいたいです」と話してくれました。今後は後輩の指導に力を入れていきたいそうです。



1_賞状を手にする長谷川さん 2_大会で木材加工をする様子 3_制作した課題作品

93年間の思い出に触れて

白石市第一幼稚園「思い出展覧会」

12月14日から19日まで、白石市第一幼稚園で「思い出展覧会」が開催されました。園児の保護者や職員、OBの有志が立ち上げた「ありがとう第一幼稚園の会」が主催したこのイベントは、3月31日をもって休園となる同園の思い出の品を展示し、多くの方に同園の歴史と思い出を振り返ってもらおうと企画されました。

会場には、昭和初期から現在までの写真やアルバム、文集や玩具、園児の衣装など約300点の品が展示。訪れた人は展示品を眺めながら、園で過ごした頃を懐かしんでいました。

佐々木淳子園長は「第一幼稚園は惜しまれつつ休園になりますが、長い歴史や園で過ごした思い出に触れてもらえたらうれしいです」と話してくれました。

同園では現在園児40人が在籍し、3月末で5歳児20人が卒園。3・4歳児20人は、4月から白石市第二幼稚園に通園する見込みです。



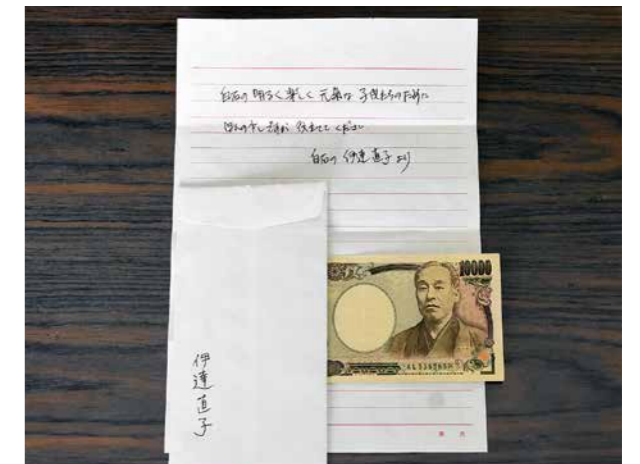
1_同園ホールに展示された品々 2_当時の文集を読む来場者 3_昭和初期の写真など貴重な資料を展示

白石の子どもたちのために

本市に1万円入りの封筒が届きました

12月14日、本市に現金1万円と手紙入りの封筒が届きました。手紙には「白石の明るく楽しく元気な子どもたちのために、ほんの少しですが役立ててください」と心温まる内容の文面と、差出人として「白石の伊達直子」と名前だけが書かれていました。

今回いただいた寄付は、差出人の方の思いをくんで、子育て支援としてふれあいプラザの「プレイルームやんちゃっこ」の玩具購入に活用します。



▲柔らかい文字で書かれた手紙と現金が同封されていました

「オール白川」地区民が結束！

白川自主防災連合会防災訓練

白川地区では本年度、白川振興会議自主防災組織連合会が発足し、11月14日に初めて連合会主催による防災訓練が開催され、住民約100人が参加しました。

訓練では、宮城県沖を震源とする震度6強の揺れを観測したと想定し、新型コロナウイルス感染リスクに配慮した避難所開設・運営訓練を実施。避難者への対応や役員・参加者の役割分担など、災害時には「オール白川」で取り組むことを確認しました。



▲訓練は旧白川中学校を使用して開催されました

たくさん雪が降りますように

みやぎ蔵王白石スキー場オープン

12月18日にみやぎ蔵王白石スキー場でスキー場開きが開催され、今シーズンの営業がスタートしました。

今年はオープン前から降雪に恵まれ、オープン初日で既に60cmの積雪があり、スキーやスノーボードをするには最高の状態。

スキー場内の新型コロナウイルス感染症対策として、入口にサーマルカメラや手指消毒液を設置、レストランでは座席にパーテーションを設置するなどの対策を講じて営業しています。



▲多くの雪が降り積もったスキー場